

## 7 自己の生き方を考える 総合的な学習の時間



多くの学校では、「育成を目指す資質・能力」を明確にし、他教科等との関連や地域との関わり、体験活動等を重視した年間指導計画等の見直し、改善を図っています。また、児童生徒の具体的な姿を基にした評価規準や計画的な評価場面を設定し、制作物、ポートフォリオ、ICTを活用した発表による表現等、多様な方法で適切な評価に努めています。

学習指導要領に示された目標及び趣旨を踏まえた上で、**全体計画、年間指導計画、単元計画を適宜見直す**ことが重要である。その際、教科等の枠を超えた**横断的・総合的な学習**かつ**自己の生き方を考える**ことに結び付く**探究的な学習**となっているかを意識すること。

指導に当たっては、体験活動や言語活動を充実させ、他者と協働的に学習に取り組む態度を育てることが大切である。

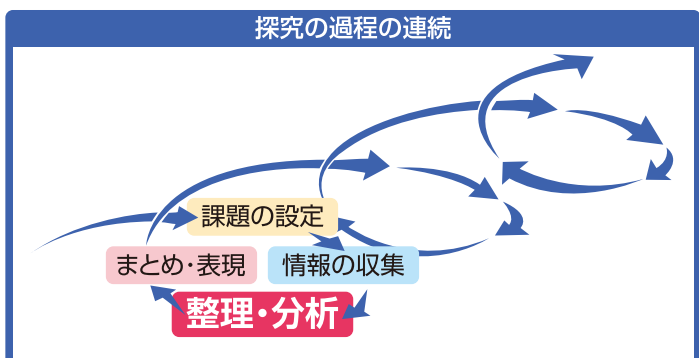
### 各学校における「目標」及び「内容」の設定

- ◎ 各学校においては、学習指導要領に示された第1の目標及び各学校における教育目標を踏まえながら、総合的な学習の時間を通して「**育成を目指す資質・能力**」を明確に示すこと。その際、他教科等との関連及び日常生活や社会との関わりを重視すること。
- 内容については、「**目標を実現するにふさわしい探究課題(何について学ぶか)**」及び「**探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力(どのようなことができるようになるか)**」が適切に設定されているか見直し、その改善に努めること。

### 意図的な指導・支援と学習状況の適切な評価

- ◎ 探究の過程においては、他者と協働して課題を解決しようとする学習活動を重視しつつ、**適宜教師が意図的な働きかけ**をすること。特に、「**整理・分析**」の場面が重要であり、**思考を深める活動の充実**に努めること。その際、例えば、比較する、分類する、関連付けるなど、考えるための技法が活用されるようにすること。
- **評価の観点及び評価規準を明確**にし、その方法や場面を工夫しながら、一人一人の学習状況を適切に評価すること。

探究の過程の連続



## 8 なすことによって学ぶ 特別活動



多くの学校では、各活動や学校行事のねらいを明確にし、内容の精選やICTの活用等を図りながら、工夫した実践を行っています。また、児童生徒の自己実現に向けて、キャリア・パスポート等を用い、自身の成長を振り返る機会を年間指導計画に位置付け、計画的に指導をしている学校が増えています。

特別活動は、様々な集団活動に**自主的、実践的**に取り組み、互いのよさや可能性を発揮しながら集団や自己の生活上の**課題を解決**することを通して、**自己実現**を図ろうとする態度等を養うことをねらいとしている。

指導に当たっては、特別活動で育成しようとする資質・能力、学習過程及び評価等について、全教職員で共通理解を図り、指導を重ねていくことが大切である。

### 学級における望ましい集団活動の推進

- ◎ 学級担任は、学習指導要領に示された**学級活動のすべての内容を意図的、計画的に指導**すること。特に、内容(1)においては、話し合い活動を充実させるため、義務教育9年間を見通しながら、その意義や進め方について**積極的に関わり、適切に指導**すること。その際、議題の扱い方や話し合いの仕方等、活動の積み重ねや経験を生かすよう努めること。
- ◎ 多様な集団活動を通して児童生徒を理解し、一人一人の**自尊感情を大切にするとともに、よりよい人間関係や居がいのある学級集団づくり**に努めること。

### 一人一人のキャリア形成と自己実現

- ◎ 学級活動の内容(3)においては、児童生徒の自己実現に向けて、**異校種間のつながりを考慮しながら、基礎的・汎用的能力を育成するキャリア教育等との関連を図る**こと。
- 児童生徒自身が自分の成長や変容を把握し、生活の改善に生かしたり、将来の生き方を考えたりする活動を行うこと。その際、「**キャリア・パスポート**」を計画的に用い、児童生徒が自らの学習状況を見通したり、振り返ったりできるように活用を工夫すること。また、進学時には学校間での引継ぎを確実にを行い、**児童生徒の学びをつなぎ次の指導に生かす**こと。

(参考資料) 8-①②

### ねらいを明確にした体験的な活動の実施

- ◎ 各活動や学校行事における体験活動の実施においては、**育成を目指す資質・能力を踏まえた計画の下、ねらいを明確**するとともに、**事前・事後の指導の充実を図る**こと。特に、事後の指導においては、**学びの手応えを実感できるようにするために、振り返りを充実させる**こと。

#### 社会的・職業的自立に向けたキャリア教育

キャリア教育で育てたい力である基礎的・汎用的能力は、学校の教育活動全体を通して育成されることが期待されています。中でも、人間関係形成・社会形成能力は特別活動における集団活動を通して形成することができる力です。

キャリア教育では、学習内容と将来の職業や生活とを関連付け、主体的な進路の選択・決定に導くことが課題となっています。指導においては、地域の実情や児童生徒の実態を踏まえ、組織的、系統的に実施できるようキャリア教育の視点で教育課程を見直し、活動後の振り返りを適切に行うなど、改善・充実していくことが大切です。



特別活動に関する参考資料へのQRコード